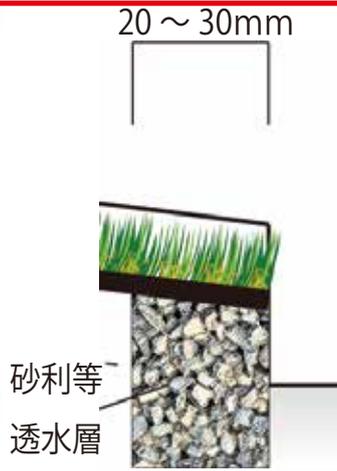


<ラインターフ 標準施工>

①

モルタル下地の作成



- ・土間の天端より 20 mm以上下までモルタルを入れます。モルタルは養生をしっかりと取って下さい。多少の水分はよいですが、水分が多すぎると専用の接着剤が固まらない可能性があります。
- ・モルタルの表面に大きな不陸（凹凸）がある場合は表面が均一になるよう補修して下さい。
- ・ラインターフ表面より水下方向へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。
- ・勾配先端部には砂利等で透水層（幅 20 mm～ 30 mm）を設け、排水された水を透水させるようにして下さい。

②

ラインターフの準備



- ・ラインターフの裏面に穴が開いている所（水抜き穴）がありますので、専用接着剤がはみ出さないように養生テープ等で穴を塞いで下さい。
- ・現場の目地の長さに合わせてラインターフを加工します。このとき裏面からカッターで切るとあまり芝糸を切らずに加工することができます。

③

接着剤の塗布



- ・下地（モルタル等）の表面にあるゴミやホコリ、油分等を除去して下さい。ゴミやホコリ、油分等が残っていると接着不良の原因になります。
清掃に水を使う場合、水たまりがあると専用接着剤が固まらない場合があります。多少の水分はよいですが、水が残りすぎないように水たまりは拭き取る等して下さい。
- ・コテ等を使用し、専用接着剤を接着面に均一に塗布して下さい。厚さ 2 mm～ 3 mm程度を目安に塗布して下さい。
- ・ラインターフ貼付後に接着剤がはみ出さないよう余幅をとるようにして下さい。

④

ラインターフの貼付



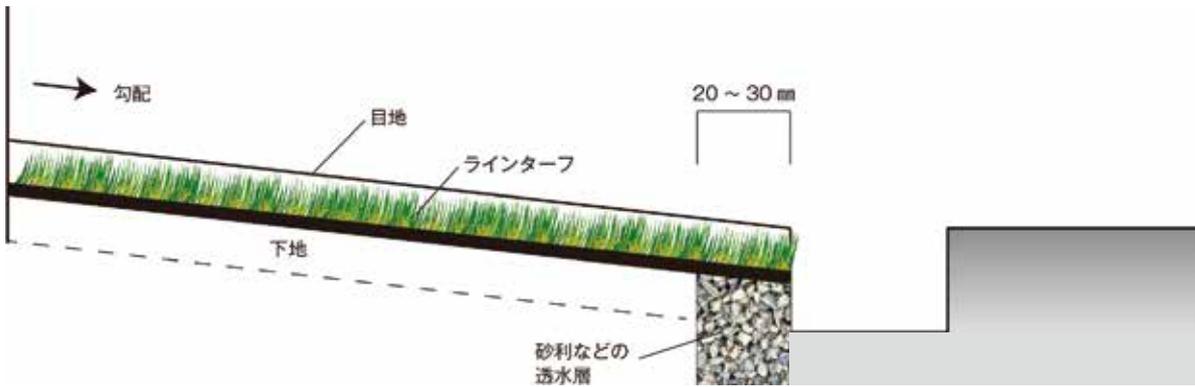
- ・専用接着剤が乾かないうちに貼り合わせます。このとき、芝糸に接着剤が付かないようご注意ください。
- ・貼り合わせる際、芝目の向きにご注意下さい。正面から見た時に芝糸が逆立って見えるように貼り合わせて下さい。
- ・継目はしっかりと突き合わせて貼り付けることで継目が目立ちにくくなります。

⑤

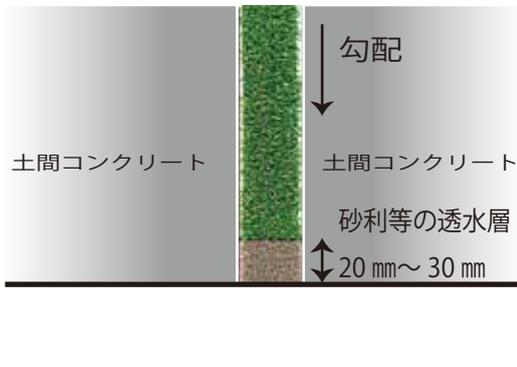
養生



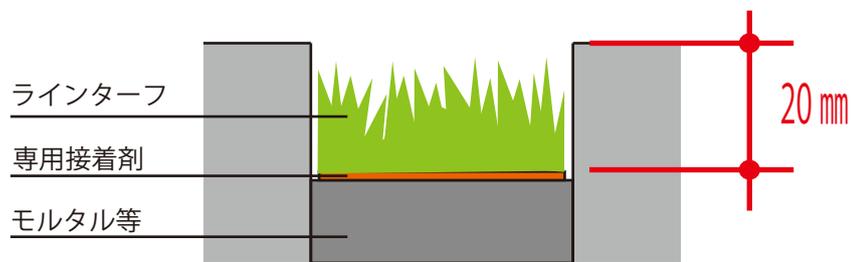
- 重しを乗せ、均等に荷重をかけ圧着します。
特にラインターフに空気が入ったような浮きが見受けられる場合、その部分をしっかりと圧着し、養生して下さい。
- 養生期間は1日以上ですが、梅雨期、冬季は乾燥・硬化が遅くなるので、3日以上養生期間を設けて下さい。
下地のモルタルに樹脂モルタルやポリマー入りのモルタルを使用する場合も硬化時間が遅くなりますのでご注意下さい。
- 養生後に芝が倒れた状態になっている場合があります。
倒れている場合は起こすようにして下さい。芝が起きにくい場合はスチーム等をご使用下さい。



【ラインターフ施工断面図 横】



【水勾配先端部の上面図】



【ラインターフ施工断面図 正面】

<ラインターフ Before After>



【Before】



【After】

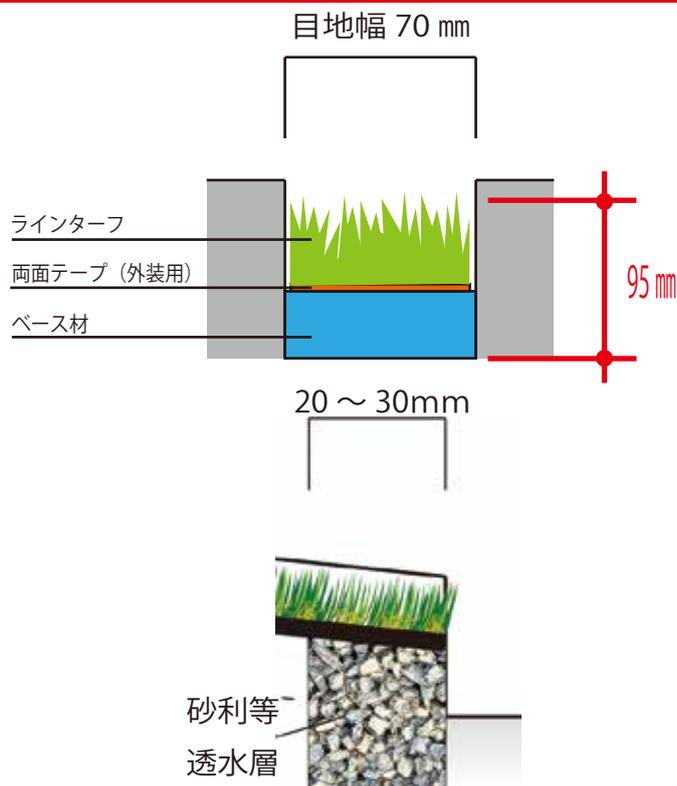
<注意事項>

- W=67 mmを基本寸法としますが、+1～2 mmの誤差が生じる場合があります。
- 製品の特性上、シワや折り目等がつく場合があります。その際は逆巻きしたり、スチーム等で温めたりして、シワや折り目等を直してからご使用下さい。
- 防災製品ですが、火気厳禁であり、高温のものを上に置くと変形や熔けるおそれがあります。スチームをご使用する場合も適度に離してご使用下さい。
- 芝目がありますので、芝が逆立って見えるように芝の先端方向が正面に向くように施工して下さい。
- 水はけの悪い場所でご使用する場合はカビ等が発生する可能性がありますので排水勾配等を設けて施工して下さい。
- 住宅の外壁と同じように使用年数の経過とともに多少色落ちする場合があります。
- カットする場合は裏面よりカッターナイフ等でカットして下さい。
また、パイルが縫い込んである部分をカットすると、パイルが多少抜けることがあります。
- ラインターフ同士をジョイントする場合は、ジョイント部をしっかりと突き合わせ施工する事で継目が目立たなくなります。また、基布の部分が目立つ場合は基布をカットする事で目立たなくなります。
- 専用接着剤は水性で水分が多い為（約30%）、硬化後に若干の縮みがあります。
接着剤に含まれている水分がなくなることで硬化する為、養生期間は1日以上必要になります。
また、接着する下地が樹脂モルタル、ポリマー入りのモルタルの場合、モルタルが接着剤の水分を吸収しにくい為、硬化までに時間が掛かります。養生期間を3日以上みるようにして下さい。
同様に水分が多い下地や高湿度（80%以上）の際は固まりにくくなりますので、養生期間を十分みるようにして下さい。ただし、水分が全くない状態では使用できなくなる恐れがある為、夏場の施工で接着面の表面温度が高い場合は、打ち水を行う等をして接着面の表面温度を下げてください。
- 専用接着剤は乾燥する前に雨に当たると溶けてしまいます（水性の為、接着面に水が流れることで溶けます）。
雨が降りそうなときは施工を見合わせて下さい。
- 専用接着剤は凍結すると使用不可能になります。冬場の施工、保管には十分ご注意ください。
- 施工時、ラインターフに空気が入ったような浮きが見受けられる場合は、その部分をしっかりと圧着し、養生して下さい。
- 本製品は材質上、静電気が発生する可能性がありますので、ご注意ください。
なお、静電気は乾燥により発生しやすくなる為、散水する事で多少改善致します。

<ラインターフ (ベース付) 標準施工>

①

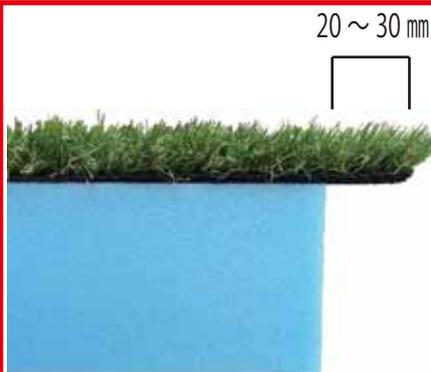
下地の調整



- ・下地が土の場合、均一にならし十分に転圧して下さい。
- ・下地がモルタル等で表面に大きな不陸（凹凸）がある場合、無理やり押し込むとベース部分が割れる可能性があります。表面が均一になるよう補修して下さい。
- ・ラインターフ表面より水下方へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。
勾配の取り方が悪いと下地に水が溜まり、ベース材が浮く可能性があります。
- ・ラインターフ（ベース付）は高さが約 95 mm あります。芝が土間の天端から出ないように目地の深さを 100 mm として下さい。
- ・目地の幅が均等でない、目地が真っ直ぐでない等の場合は下地を整えて下さい。下地が調整できない場合はベース材の側面や底面等を調整してから施工して下さい。
- ・下地をモルタル等にする場合、勾配先端部には砂利等で透水層（幅 20 mm～30 mm）を設け、排水された水を透水させるようにして下さい。

②

透水層の作成



- ・水下方向の勾配先端部には水が溜まり易い為、排水させる為の透水層を作ります。
- ・透水層作成の為、勾配先端部のベース材は 20～30 mm カットして下さい。
※加工の方法は③ラインターフ（ベース付）はめ込み・カットをご参照下さい。

【勾配先端部のベース材処理】



<透水層への砂利詰め>

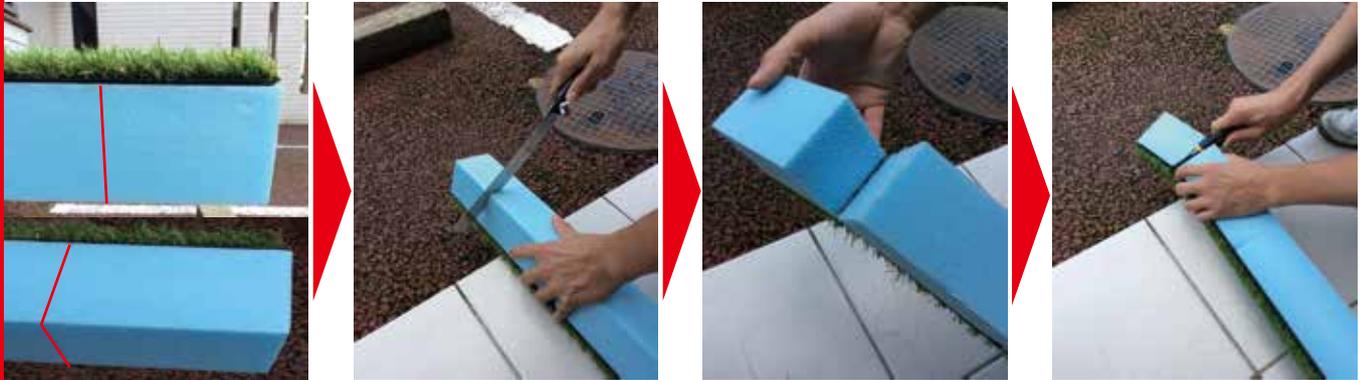
- ①排水された水を透水させるために勾配先端部に砂利を入れて下さい。
- ②左図のように先端部のラインターフを上部に開き、砂利を入れます。
- ③砂利を入れた後はラインターフを戻して下さい。



③

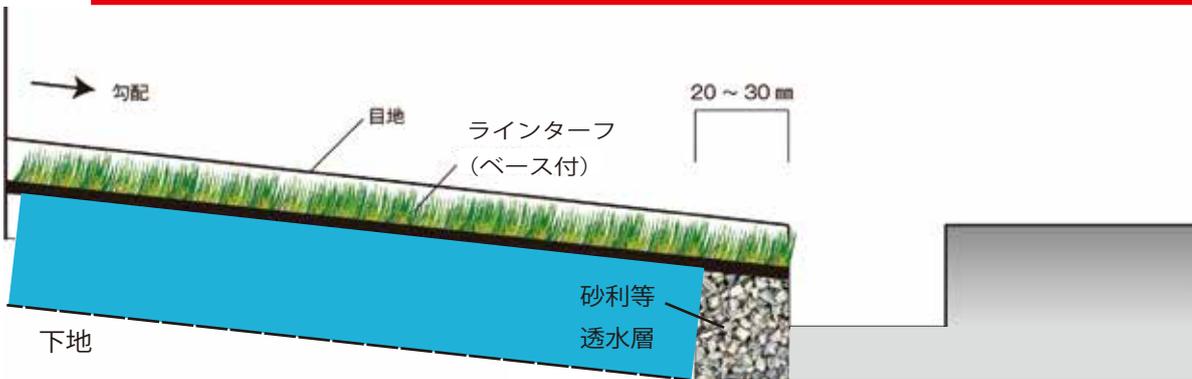
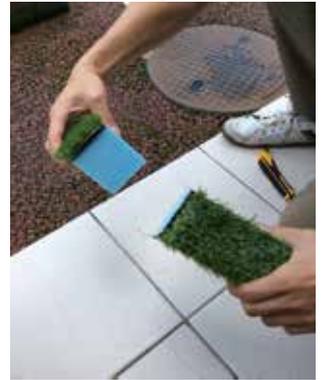
ラインターフ (ベース付) のはめ込み・カット

- ・目地にはめ込むだけの簡単施工です。幅など合わない部分は目地やベース材を調整してはめ込んで下さい。
- ・継目に段差ができる場合、もしくは隙間ができる場合は状況に応じてベース部分のみを削り (ラインターフは切らない)、突き合わせる事で調整することができます。
※ベース部分を加工する場合はカッターナイフ等で加工することができます。加工する際はケガには十分ご注意ください。
- ・芝が倒れた状態になっている場合があります。倒れている場合は起こすようにして下さい。
芝が起きにくい場合はスチーム等をご使用下さい。

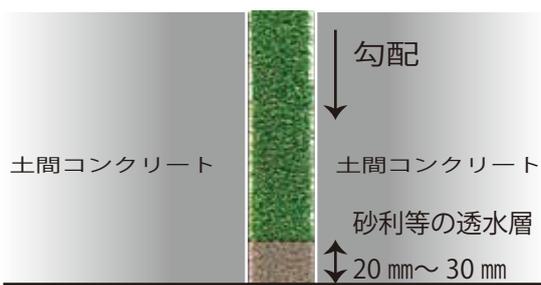


<ラインターフ (ベース付) の加工>

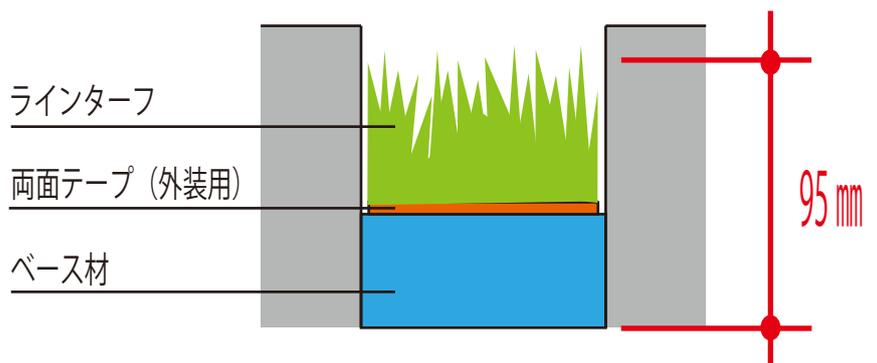
- ①ベース材にカットラインを書く
- ②カットラインに沿ってベース材をカット
(塩ビパイプ等を切る歯の細かいノコギリを使用するときれいに切れます。)
- ③ベース材がカットできたらカッターでラインターフを切ります。
このとき、両面テープが付いている為、多少切りにくいのでご注意ください。
また、ラインターフを切るときに裏面から切ることあまり芝糸を切らずに加工することができます。



【施工断面図】



【水勾配先端部の上面図】



【ラインターフ (ベース付) 施工断面図 正面】

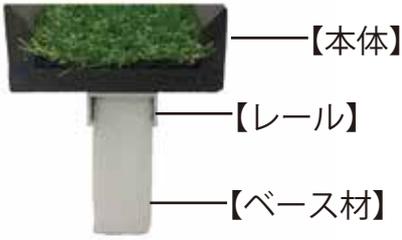
<注意事項>

- W=67mmを基本寸法としますが、+1～2mmの誤差が生じる場合があります。
- 製品の特性上、芝が倒れた状態になっている場合があります。倒れている場合は起こすようにして下さい。
芝が起きにくい場合はスチーム等をご使用下さい。
- 防災製品ですが、火気厳禁であり、高温のものを上に置くと変形や熔けるおそれがあります。
スチームをご使用する場合も適度に離してご使用下さい。
- 芝目がありますので、芝が逆立って見えるように芝の先端方向が正面に向くように施工して下さい。
- 水はけの悪い場所でご使用する場合はカビ等が発生する可能性がありますので排水勾配等を設けて施工して下さい。
- 住宅の外壁と同じように使用年数の経過とともに多少色落ちする場合があります。
- カットする場合は裏面よりカッターナイフ等でカットして下さい。
ベース材をカットする場合は塩ビパイプ等を切るような歯の細かいものを使用すると容易に切ることができます。
また、パイルが縫い込んである部分をカットすると、パイルが多少抜けることがあります。
- ラインターフ同士をジョイントする場合は、ジョイント部をしっかりと突き合わせ施工する事で継目が目立たなくなります。また、基布の部分が目立つ場合は基布をカットする事で目立たなくなります。
- 施工後に目地が冠水したり、水がたまったりするとベース材が浮く可能性があります。
冠水地域や水がたまりやすい場所への施工では下地にモルタルを入れ、専用接着剤で接着して下さい。
- ラインターフ（ベース付）に使用しているベース材とモルタル、コンクリートは専用接着剤で接着が可能ですが、硬化までに時間が掛かります。（接着剤に溶剤は含まれておりません）
専用接着剤は、接着剤は水性で水分が多い為（約30%）、硬化後に若干の縮みがあります。
接着剤に含まれている水分がなくなることで硬化する為、養生期間は3日以上必要になります。
また、接着する下地が樹脂モルタル、ポリマー入りのモルタルの場合、モルタルが接着剤の水分を吸収しにくい為、硬化までに時間が掛かります。養生期間を3日以上みるようにして下さい。
同様に水分が多い下地や高湿度（80%以上）の際は固まりにくくなりますので、養生期間を十分みるようにして下さい。ただし、水分が全くない状態では使用できなくなる恐れがある為、夏場の施工で接着面の表面温度が高い場合は、打ち水を行う等をして接着面の表面温度を下げてください。
- 専用接着剤は乾燥する前に雨に当たると溶けてしまいます（水性の為、接着面に水が流れることで溶けます）。
雨が降りそうなときは施工を見合わせて下さい。
- 専用接着剤は凍結すると使用不可能になります。冬場の施工、保管には十分ご注意ください。
- 本製品は材質上、静電気が発生する可能性がありますので、ご注意ください。
なお、静電気は乾燥により発生しやすくなる為、散水する事で多少改善致します。
- ラインターフ（ベース付）は施工時に目地のレイタンスが悪い場合、無理やり押し込むとベース部分が割れる可能性があります。必ずレイタンスを除去し下地を整えてからご使用下さい。
- ラインターフ（ベース付）に使用しているベース材は土中に埋めても加水分解しませんが、虫に食べられる可能性があります（餌にはなりません）。土の上に施工する場合はご注意ください。
- ラインターフ（ベース付）に使用しているベース材は運動靴や安全靴で踏んでも跡が付く程度ですが、ベース材がたわんでいる状態で衝撃（踏みつける等）が加えられると割れる可能性がありますのでご注意ください。
また、ヒール等先が尖っているもので踏みつけた場合は穴が開く可能性があります。

<ラインターフ Next 標準施工>

①

土間打ち前の準備



<下準備>

- ・梱包してある状態からベース材（発泡スチロール）を取り出し、本体裏側のレールにはめ込みます。
- ・ラインターフ Next 本体同士をジョイントする場合は片側に付属の防水テープを継目に貼り付けて下さい。（収縮対策）
- ・コンクリート付着防止に養生テープを貼り付けます。（養生テープ 別売）土間打ちまでに貼り付けて下さい。
- ・ラインターフ表面より水下方向へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。

<土間打ちまでの準備>



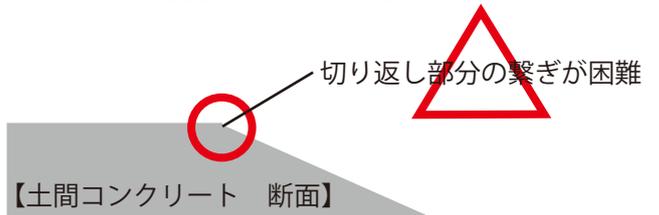
①ベース材のはめ込み ②モルタルを敷きベース材を固定し、水系に合わせて勾配や傾きを調整する ③汚れの清掃
(水系を2本張って天端を合わせることで、調整がしやすくなります)



④ベース材へモルタルを擦り付け、固定する

⑤養生テープの貼り付け

※勾配が変わる土間への使用については、
本商品が直線のみでの為、繋ぎ合わせる際に隙間が生じます。
その為、土間勾配が一定方向の現場でのご使用をお勧め
致します。



【ジョイント方法】

<直線>レールにはめ込んだベース材をずらし、接続する方のレールに繋ぎ合わせます。（ベース材は 300 mm以上繋ぐ）



継目の緩衝材（防水テープ）の貼り付け

※ベース材は 200 mm程度ならば開いても可

<クロス部>



本体に付属されている防水テープをカットし、ジョイントする片側の端部に貼り付けます。



クロスジョイント（別売）を用いて繋ぎ合わせます。
ラインターフ Next のレールを切ってある部分を
クロスジョイントにはめ込み、ベース材で繋ぎ合わせます。

②

土間打ち完了



汚れは取り除いて下さい

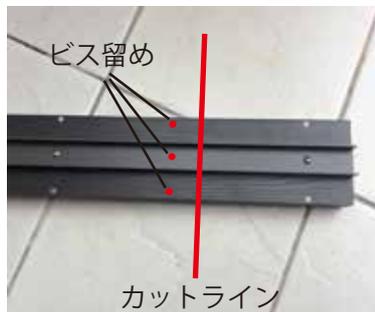


<土間打ち～仕上げ>

- ・モルタルでベース材が固定ができたなら土間打ちを行います。
ラインターフN e x tの天場と合わせて土間を打ってください。(面取りは不要です)
- ・はみ出したノロはブラシ等で取り除き、養生テープをはがしたら汚れている部分を拭き取り、施工完了です。

③

その他



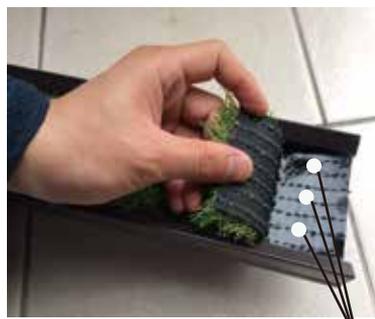
<ラインターフN e x tの加工>

- ①ベース材を外してサンダー等でカットします。
- ②カットした端部を付属のビス (3本) で留めて補強します。



<水勾配先端部の加工>

- ①ベース材 20mm～30mm控えてレールにはめ込みます。
- ②人工芝部分をめくり、上から数か所穴を開けて水が浸透するようにします。
(ドリル等を用いて穴を開けて下さい。本商品の材質は本体が樹脂、レール部分がアルミです。)



水抜き穴

20～30mm

砂利等
透水層



【水勾配先端部の断面図と上面図】

<注意事項>

- 基本寸法から、+1～2mmの誤差が生じる場合があります。
- 製品の特性上、芝が倒れた状態になっている場合があります。倒れている場合は起こすようにして下さい。
芝が起きにくい場合はスチーム等をご使用下さい。
- 防災製品ですが、火気厳禁であり、高温のものを上に置くと変形や熔けるおそれがあります。
スチームをご使用する場合も適度に離してご使用下さい。
- 芝目がありますので、芝が逆立って見えるように芝の先端方向が正面に向くように施工して下さい。
- 水はけの悪い場所でご使用する場合はカビ等が発生する可能性がありますので排水勾配等を設けて施工して下さい。
- 住宅の外壁と同じように使用年数の経過とともに多少色落ちする場合があります。
- ラインターフ同士をジョイントする場合は、ジョイント部をしっかりと突き合わせ施工する事で継目が目立たなくなります。また、基布の部分が目立つ場合は基布をカットする事で目立たなくなります。
- 本製品は材質上、静電気が発生する可能性がありますので、ご注意下さい。
なお、静電気は乾燥により発生しやすくなる為、散水する事で多少改善致します。

<ラインターフ注意事項>

- W=67mmを基本寸法としますが、+1~2mmの誤差が生じる場合があります。
- 製品の特性上、シワや折り目等がつく場合があります。その際は逆巻きしたり、スチーム等で温めたりして、シワや折り目等を直してからご使用下さい。
- 防災製品ですが、火気厳禁であり、高温のものを上に置くと変形や熔けるおそれがあります。スチームをご使用する場合も適度に離してご使用下さい。
- 芝目がありますので、芝が逆立って見えるように芝の先端方向が正面に向くように施工して下さい。
- 水はけの悪い場所でご使用する場合はカビ等が発生する可能性がありますので排水勾配等を設けて施工して下さい。
- 住宅の外壁と同じように使用年数の経過とともに多少色落ちする場合があります。
- カットする場合は裏面よりカッターナイフ等でカットして下さい。また、パイルが縫い込んである部分をカットすると、パイルが多少抜けることがあります。
- ラインターフ同士をジョイントする場合は、ジョイント部をしっかりと突き合わせ施工する事で継目が目立たなくなります。また、基布の部分が目立つ場合は基布をカットする事で目立たなくなります。
- 専用接着剤は乾燥する前に雨に当たると溶けてしまいます。雨が降りそうなときは施工を見合わせて下さい。また、高湿度（80%以上）の際は固まりにくくなりますので、施工時は十分注意して下さい。
- 専用接着剤は凍結すると使用不可能になります。冬場の施工、保管には十分ご注意ください。
- 専用接着剤は水性で水分が多い為、硬化後に若干の縮みがあります。また、水分がなくなると使用できなくなる恐れがある為、夏場の施工で接着面の表面温度が高い場合は、打ち水を行う等をして接着面の表面温度を下げてください。
- 本製品は材質上、静電気が発生する可能性がありますので、ご注意ください。なお、静電気は乾燥により発生しやすくなる為、散水する事で多少改善致します。

<施工方法・注意点>

1. ラインターフの裏面に穴があいている所がありますので、専用接着剤がはみ出さないように養生テープ等で穴を塞いで下さい。
2. 接着面のゴミやホコリ、油分等を除去します。接着面のゴミやホコリ、油分等が残っていると接着不良を起こす可能性がある為、十分に除去して下さい。
3. コテ等を使用し、専用接着剤を接着面に均一に塗布して下さい。ラインターフ貼り付け後に接着剤がはみ出さないよう余幅をとるようにして下さい。
4. 専用接着剤が乾かないうちにラインターフを貼りつけて下さい。
5. おもしを乗せ、均等に荷重をかけ、圧着します。養生時間は24時間以上ですが、梅雨時、冬季は乾燥・硬化が遅くなるので、養生期間をできるだけ長く設けて下さい。養生後は荷重により芝が倒れた状態になりますので、起こすようにして下さい。芝が起きにくい場合はスチーム等をご使用下さい。